

理念：馬を介在として、運動機能の改善、社会性の芽生え、コミュニケーション能力の向上などを目指し、療育を行う。

- ・馬により日常ではできない運動をすることにより、体幹バランスの改善、運動機能の改善を目指す。
- ・ソーシャルスキルトレーニング（SST）を取り入れた教育プログラムにより、人間関係・社会性の向上を目指す。

令和6年4月1日より、以下の5領域について個別支援計画を作成し、個人ごとの支援プログラムを作成しています。障がい者乗馬レッスンを通じて学んでいきます。5領域とは、1.健康・生活、2.運動・感覚、3.認知・行動、4.言語・コミュニケーション、5.人間関係・社会性です。

### 1.健康・生活

#### 乗馬レッスン前の確認事項

体幹の様子を見る（上肢下肢の内転内反、外転外反、重心の保ち方のチェック）。機能低下の部位のチェック、アイコンタクト・意思表示の仕方をチェックする。過敏の特異性を見る（視覚・聴覚・嗅覚など）。こだわりの特性に寄り添う（時間、物、合図など）。

平均4回のアプローチレッスンを経た後、それを元にひとりひとりの特性に寄り添ったプログラムを組んでいきます。5回目の騎乗から短期・長期の目標に向かい通

### 2.運動・感覚

体幹の強化、姿勢の保持などを総合的にトレーニングするために馬を使い3Dの運動を入れます。

3D：上下左右前後の運動を同時に入れる。

個々に合わせて馬の背幅や上下の反動、大きさを選ぶ。

個々の身体的条件により馬具や手綱を選択します。

### 3.認知・行動

・20分（騎乗時間）の体内時計を作る

馬に乗ってから降りるまでの時間は20分となります。これを続けて体内時計を作っていきます。「馬に乗っている間、集中しよう」などの声掛けをしていき感覚を養って行きます。

・物の選択を覚える

馬に乗りながら「赤のカラーコーンで止まる」「黄色いリングを同じ色のコーンに入れる」などゲームを通じ「選択・マッチング・空間認知」を養っていきます。

#### 4.言語・コミュニケーション

##### 発進停止の合図

馬を進める時は「す・す・め」、止まる時は「と・ま・れ」のルールで行います。発語の無い方の場合は、「左手を3回」で進め、「右手を1回」で止まれ、が合図になります。さらに発信の力加減（声の大きさ、言い方、ペースなど）の感覚を磨いていきます。

自分からの発信が相手（馬）に伝わるといった実感を自然と得ることができます。

#### 5.人間関係・社会性

##### ・人間関係・社会性の獲得のために

- ①レッスン開始前に集合、身支度を整える、騎乗の順番を待つ。
- ②乗り終わって下馬したら馬に「ありがとう」を言う。ちょうどいい力加減でなでる。
- ③反省会の時は立って話を聞く（他の人の話の時も同様）。以上を通じてルールやマナーを身に付けていきます。

##### ・騎乗レッスン以外の活動

厩舎作業：普段乗せてくれる馬のためにお世話をする。（馬房の掃除、水替え、エサづくりなど）

グルーミング：ブラシ掛けや裏ほりを行う。支援員の説明を聞き、相手（馬）の様子を確認しながら行う。自分が相手のために「主体的に関わる」ことを学ぶ。

曳き馬：正しいリードの持ち方、立ち位置、距離、スピードコントロールなどを学ぶ。自分がどのようにしたら相手（馬）が動いてくれるかを考えながら行動します。自分が馬のためにしてあげることで馬が自分を乗せてくれる、という相互関係を育んでいきます。

#### 家族支援

子育てに関する困りごとに対する相談援助。  
保護者同士の交流の機会提供。

#### 移行支援

将来的な意向を見据えた目標や支援内容の設定  
進路先や移行先の選択への相談援助

#### 職員の質の向上

課題別研修への参加  
虐待防止・身体拘束等の研修への参加

#### 地域支援・地域連携

医療機関との情報連携  
ボランティア、職場体験の受け入れ  
馬とのふれあい事業の開催

#### 主な行事等

乗馬大会（毎年6月）、クリスマス&ボランティア感謝祭（毎年12月）